令和5年度全国学力・学習状況調査

本県の結果と今後の対策

【小学校】

令和6年2月16日

青森県教育庁学校教育課

令和５年度全国学力・学習状況調査
本県の結果と今後の対策【小学校】

目　　次

Ⅰ　全体概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1　調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　2　教科ごとの状況・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　3　質問紙調査結果から見える要因・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅱ　国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　1　教科全体の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　2　領域別の正答率 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　3　問題別集計結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　4　問題別集計結果の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　5　児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況 ・・・・・・・・・・・・・・6
　6　学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況 ・・・・・・・・・・・・・・7
　7　指導改善のポイント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

＜令和4年度県学習状況調査を踏まえて（国語）＞　・・・・・・・・・・・・・・・10

Ⅲ　算数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　1　教科全体の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　2　領域別の正答率 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　3　問題別集計結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　4　問題別集計結果の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　5　児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況 ・・・・・・・・・・・・・・15
　6　学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況 ・・・・・・・・・・・・・・16
　7　指導改善のポイント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

＜令和4年度県学習状況調査を踏まえて（算数）＞　・・・・・・・・・・・・・・・18

Ⅳ　質問紙調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
　1　児童質問紙調査の結果と今後の対策 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
　2　学校質問紙調査の結果と今後の対策 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

＊　本報告書の活用に当たって　＊

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものです。

本報告書の活用に当たっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたいと考えております。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、全ての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『令和5年度全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（ダウンロード版）を参照してください。

また、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」が掲載されていますので、併せて活用してください。

＊　本報告書の用語や記号等について　＊

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用しています。

「全国平均との差」
：「今年度の本県の平均正答率－今年度の全国の平均正答率」の式で求めた値。本県が全国を上回っていれば「＋」、また、下回っていれば「－」で表示しています。

「前年度との差」
：「今年度の本県の平均正答率－令和4年度の本県の平均正答率」の式で求めた値。
今年度が令和4年度を上回っていれば「＋」、また、下回っていれば「－」で表示しています。

「過年度との差」
：隔年で質問されている項目へ対応するため、「今年度の本県の平均回答率－令和4・令和3・平成31・30・29年度の本県の平均回答率」の式で求めた値。今年度が過年度を上回っていれば「＋」、また、下回っていれば「－」で表示しています。

※本県の平均正答率は「％」で、過年度との差については「ポイント」で表しています。

「□」：概況を示しています。

「▼」：課題を示しています。

「◆」：今後の方向性や対策・指導等を示しています。

「★」：肯定的な回答と教科の相関があることを示しています。

「数字」：本県の平均正答率が、対比している値に対して5ポイント以上下回っていることを示しています。

Ⅰ　全体概要

1　調査の概要

（1）調査実施日

令和5年4月18日（火）

（2）調査内容（教科、質問紙調査）

①　教科
小学校　国語（45分）　算数（45分）
中学校　国語（50分）　数学（50分）　英語（45分）　※英語「話すこと」（5分程度）

②　質問紙
児童生徒質問紙調査
学校質問紙調査

（3）参加公立学校数
小学校参加校数　　本県　250校（全国　18,672校）
中学校参加校数　　本県　148校（全国　9,408校）

（4）参加児童生徒数
小学校児童数　　本県　8,521名【国語】（全国　964,177名）
8,519名【算数】（全国　964,350名）
中学校生徒数　　本県　8,511名【国語】（全国　892,738名）
8,507名【数学】（全国　893,114名）
8,525名【英語】（全国　893,528名）

2　教科ごとの状況

本県の公立小・中学校の児童生徒の学力の状況は、小学校においては、全ての教科で、平均正答率が全国平均を上回っています。中学校においては、国語が全国平均を上回っている一方で、数学と英語は全国平均を下回っています。

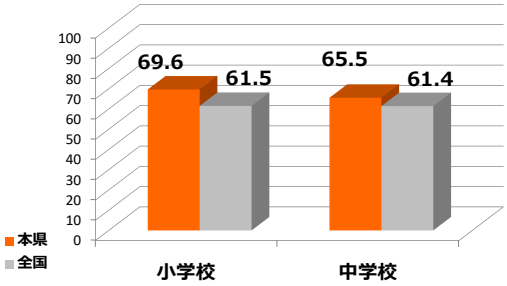
	令和5年度	
	平均正答率（%）	
	青森県（公立）	全国（公立）
小学校国語	70	67.2
小学校算数	63	62.5
中学校国語	70	69.8
中学校数学	49	51.0
中学校英語	42	45.6

3　質問紙調査から見える要因

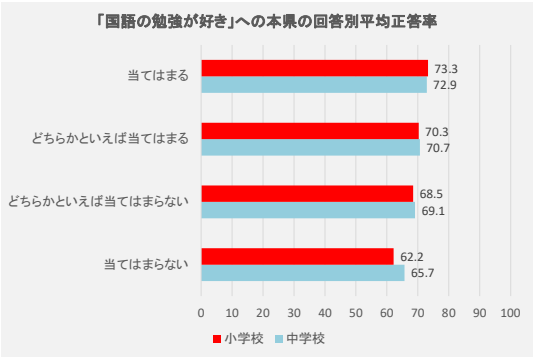
ここでは、本県の調査結果に係る要因の一つとして「各教科に対する興味・関心について」を取り上げます。その他の要因については、各教科の頁を参照してください。

要因につながるデータ

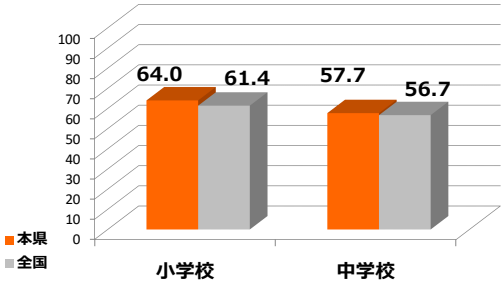
【国語の勉強は好きか】



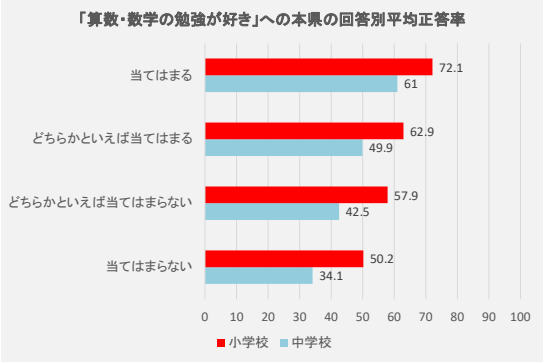
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合(%)】



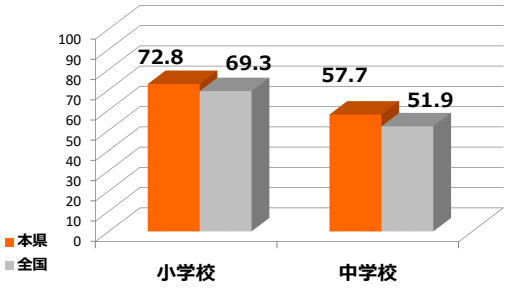
【算数・数学の勉強は好きか】



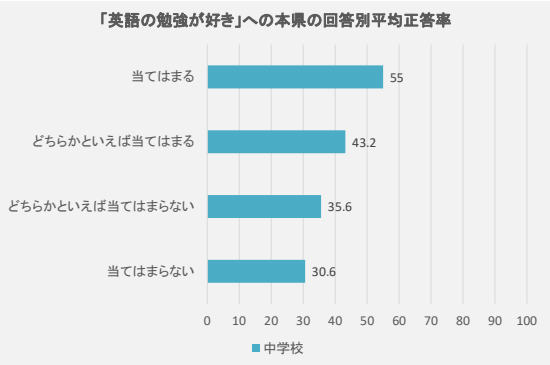
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合(%)】



【英語の勉強は好きか】



【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合(%)】



□本県の児童生徒は、各教科の学習に対する興味・関心が全国平均を上回っている。
□各教科の学習に対する関心が高い児童生徒は、各教科における平均正答率も高い傾向にある。
◆今後も、児童生徒の各教科の学習に対する興味・関心を高める働きかけを工夫するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成に努めることが肝要である。

Ⅱ　国語

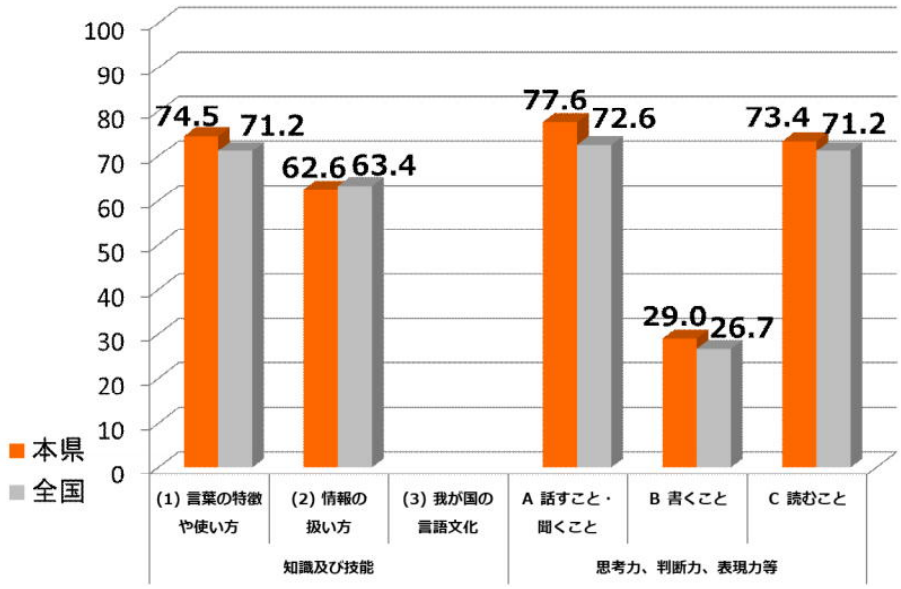
1　教科全体の結果

国語の平均正答率（%）		
青森県	全国平均との差	令和４年度全国平均との差
７０	＋２．８	＋２．４

□　国語全体としては、本県は、全国平均をやや上回っている。

2　領域別の正答率

分　類	区　分		平均正答率（%）		
			青森県	全国平均との差	令和４年度全国平均との差
学習指導要領の内容	知識及び技能	（1）言葉の特徴や使い方に関する事項	７４．５	＋３．３	＋６．４
		（2）情報の扱い方に関する事項	６２．６	－０．８	
		（3）我が国の言語文化に関する事項			＋３．５
	思考力、判断力、表現力等	Ａ話すこと・聞くこと	７７．６	＋５．０	－０．３
		Ｂ書くこと	２９．０	＋２．３	＋１．９
		Ｃ読むこと	７３．４	＋２．２	－２．０
評価の観点		知識・技能	７１．１	＋２．２	＋５．９
		思考・判断・表現	６８．９	＋３．４	－０．６
		主体的に学習に取り組む態度			



□「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「思考力、判断力、表現力等」については、全国平均を上回っている。
▼「情報の扱い方に関する事項」については、全国平均をやや下回っている。

3　問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等											
			(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	青森県（公立）	全国（公立）	全国（公立）との差
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		5・6ア					○			○			66.2	64.7	1.5
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6エ			○				○	29.0	26.7	2.3
1三（1）ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（いがい）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6エ						○				○		62.0	52.8	9.2
1三（1）ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す（きかん）		5・6エ						○				○		75.3	72.6	2.7
1三（2）イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する（くらべて）	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6ウ						○			○			95.4	93.1	2.3
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	5・6カ						○			○			81.1	79.8	1.3
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる						3・4ウ		○		○			91.1	90.0	1.1
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						5・6ウ		○		○			68.6	67.4	1.2
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6イ					○			○			59.0	62.0	-3.0
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる						5・6オ		○				○	60.6	56.2	4.4
3一（1）	【インタビューの様子】の傍線部ア（～ということだと思いますが、合っていますか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる				3・4エ				○		○			76.4	73.6	2.8
3一（2）	【インタビューの様子】の傍線部イ（～というのは、どのような姿ですか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する					3・4エ				○		○			77.1	74.0	3.1
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6エ				○				○	79.2	70.2	9.0
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5・6キ						○			○			58.7	57.6	1.1

4　問題別集計結果の状況

○良好であること

○知識及び技能
（１）言葉の特徴や使い方に関する事項
・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」
（【１三（１）ア】対全国比：＋９．２、【１三（１）ウ】対全国比：＋２．７）
・「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」
（【１三（２）イ】対全国比：＋２．３）
○思考力、判断力、表現力等
Ａ話すこと・聞くこと
・「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」
（【３二】対全国比：＋９．０）
・「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる」
（【３一（１)】対全国比：＋２．８、【３一（２)】対全国比：＋３．１）
Ｃ読むこと
・「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」
（【２四】対全国比：＋４．４）

▼課題であること

※全国平均を下回っているもの

▼知識及び技能
（２）情報の扱い方に関する事項
・「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」
（【２三】対全国比：－３．０）

※全国平均を上回っているが正答率が低いもの

▼思考力、判断力、表現力等
Ｂ書くこと
・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」
（【１二】正答率：２９．０％　対全国比：＋２．３）

学習指導に当たって

知識及び技能　(2)情報の扱い方に関する事項

・目的に応じて必要だと判断した複数の語句を図示することによって整理できるようにすることが大切である。その際、児童が知っていたり、これまでの学習で使ったりしたことがある様々な情報の整理の仕方の中から、自分に合った方法を選ぶことができるように指導する。

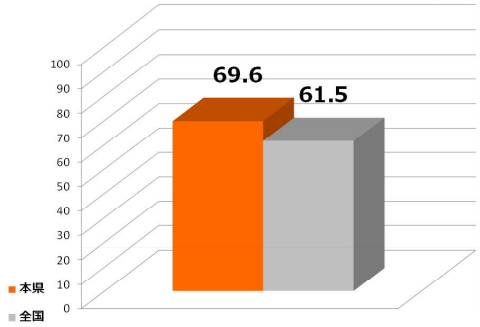
思考力、判断力、表現力等　Ｂ書くこと

・伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導する。
・推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直していくことが大切である。児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示する。
・引用した図表やグラフの出典については必ず明記するとともに、引用部分が適切な量になるようにする必要がある。図表を用いる場合には、本文に「図１は、～」、「表１は、～」といった表現を用いて本文との関連を示すことを指導する。

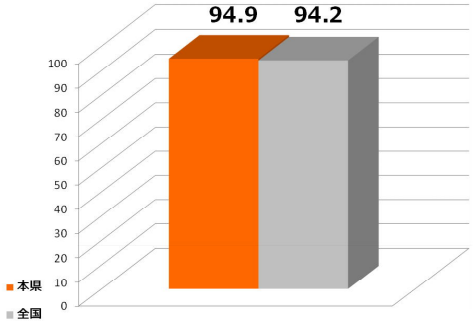
５　児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童の割合（%）】

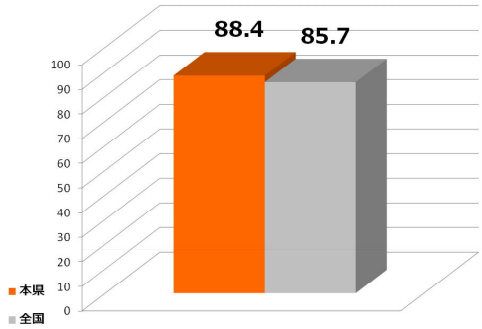
【（４３）国語の勉強は好きか】



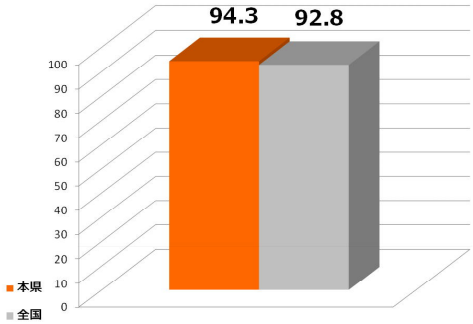
【（４４）国語の勉強は大切か】



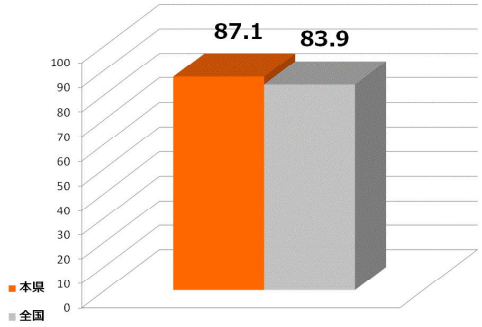
【（４５）国語の授業の内容はよく分かる】



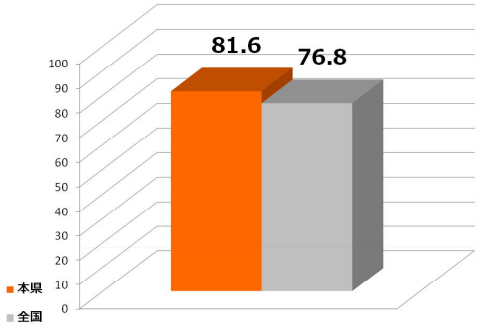
【（４６）国語の授業で学習したことは、将来役に立つと思う】



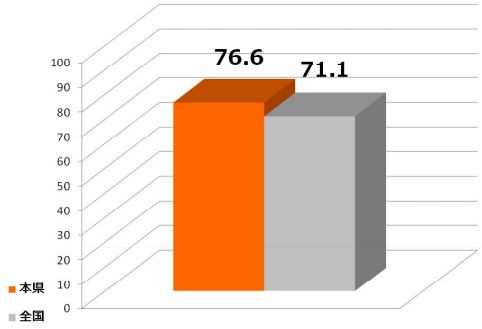
【（４７）国語の授業で言葉には相手との好ましい関係をつくる働きがあることを学んでいる】



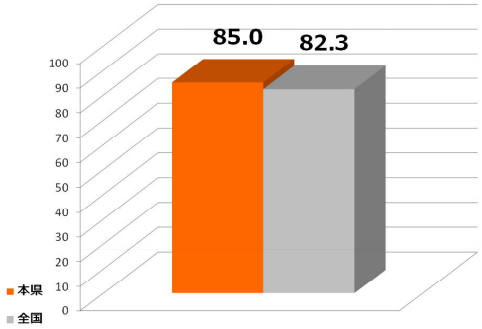
【（４８）国語の授業で立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている】



【（４９） 国語の授業で書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている】



【（５０） 国語の授業で物語を読むときに登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している】

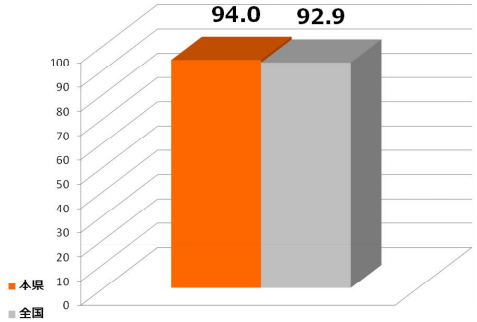


□児童の国語学習に対する興味・関心や授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、全ての質問において全国平均を上回っている。
□９割以上の児童が、国語の勉強は大切であり、国語の授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。

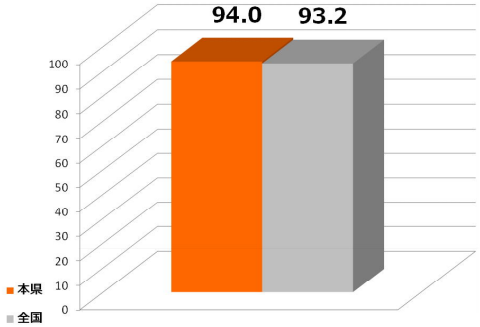
６　学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（%）】

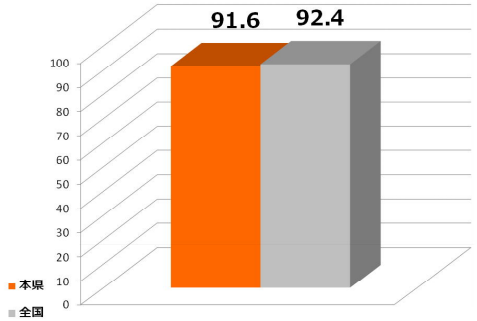
【（４２） 自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行った】



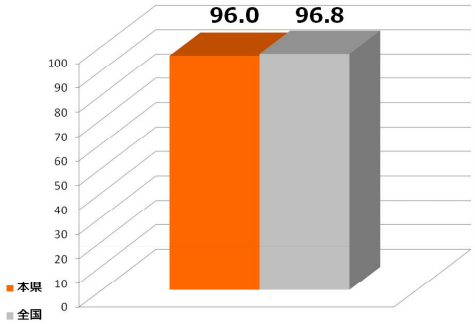
【（４３） 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行った】



【（４４） 互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行った】



【（４５） 登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行った】



□国語指導に対する取組の意識は全国平均と同程度であり、全ての質問において９割を超えている。
▼互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導及び登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導行った割合がどちらも全国平均を０．８ポイント下回っている。

7　指導改善のポイント

（１）各領域について《令和５年度　全国学力・学習状況調査　報告書より》

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

◆　日常よく使われる敬語を理解し使い慣れる指導の充実

・　日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切である。話したり聞いたりする活動を通して、敬語の使い方について理解できるようにしたり、学校行事や来客があったときに敬語の使い方を確認したりするなどして指導すると効果的である。

情報の扱い方に関する事項

◆　情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う指導の充実

・　情報と情報との関係を捉えながら、語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句とを線でつないだりするなど、情報の関係を表す方法を指導することが大切である。様々な情報の整理の仕方を提示した上で、児童が自分の目的に合った方法を選ぶことができるように指導すると効果的である。また、〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｃ読むこと」の指導事項との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと･聞くこと

◆　目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる指導の充実

・　話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが重要である。相手が自分に伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確にして聞くことが大切である。話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることを指導すると効果的である。

書くこと

◆　図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実

・　自分の考えを分かりやすく伝えるためには、図表やグラフなどを用いて、書き表し方を工夫することが大切である。必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるように指導すると効果的である。

読むこと

◆　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる指導の充実

・　文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既有の知識などと結び付けて自分の考えを形成することが重要である。〔知識及び技能〕の「情報の整理」の指導事項との関連を図り、複数の資料を読んで理解したことを整理したり、理解したことの中から既有の知識などに結び付くことを考えたりしながら、自分の考えをまとめることが大切である。考えをまとめる際には、〔知識及び技能〕の⑴「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「思考に関わる語句」を使うことなどと関連を図り、理解したことと考えたことの関係が分かるようにまとめることを指導すると効果的である。

（２）質問紙調査の結果を踏まえて

児童質問紙

◆　資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導及び読書の充実

・「読書が好きだ」（県平均：７３．５、全国平均：７１．８）
「５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」（県平均：６４．８、全国平均：６３．７）
「国語の授業の内容はよく分かる」（県平均：８８．４、全国平均：８５．７）
「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている」（県平均：８１．６、全国平均：７６．８）
「国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している」（県平均：８５．０、全国平均：８２．３）
「今回の国語の問題では、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」（県平均：８３．５、全国平均：７８．０）

上記のように回答している児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られ、本県は６問中全問で全国平均を１．１～５．５ポイント上回っている。また、６問中４問は８割以上の児童が肯定的に回答している。

しかし、「５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」の質問については、全国平均を下回った昨年度に比べ、改善がみられるものの、肯定的に回答した児童は６割程度にとどまっている。

今後も引き続き、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導を充実させていくことが大切である。また、読書は国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つであることから、〔知識及び技能〕の「読書」に関する事項との関連を図り、児童の日常の読書活動に結び付くようにすることが重要である。

学校質問紙

◆　話すことに関する指導事項と聞くことに関する指導事項との関連を図った指導の充実

・「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う」（県平均：７６．３、全国平均：７９．０）
「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思う」（県平均：８８．４、全国平均：８７．７）

上記のように回答している学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。本県は「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う」については全国平均を２．７ポイント下回っているが、昨年度と比べると２問とも改善がみられる。

話の内容を分かりやすく伝えるためには、資料を活用するなどして表現を工夫すること

が大切である。聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、補足説明が必要な箇所や言葉だけでは伝わりにくい内容について、どのような資料を用意すればよいかを考えることも重要である。話合いは、話すことと聞くこととが交互に行われる言語活動であり、それぞれの児童が話し手でもあり聞き手でもある。話合いの過程では、「話すこと」と「聞くこと」に関する資質・能力が一体となって働くため、指導に当たっては、話すことに関する指導事項と聞くことに関する指導事項との関連を図ることが重要である。

国語科の指導方法に関する質問事項については、４問中全ての質問において９割を超えており、概ね良好な状況である。

〈令和４年度県学習状況調査を踏まえて（国語）〉

令和４年度県学習状況調査実施報告書において、本県の小学生は「書くこと」及び「読むこと」に課題があると分析した。

「書くこと」については、示された複数の情報を精査して考えを形成し、条件を満たして文章を書く力が不足していることが考えられる。今後の指導に当たっては、国語科の内容〔思考力、判断力、表現力等〕「Ｂ　書くこと」を指導する単元の中で、効果的に〔知識及び技能〕を育成するとともに、身に付けた〔知識及び技能〕を授業の中で生かせる言語活動の設定が必要である。そのためには、身に付けさせる資質・能力である「指導事項」をしっかりと理解した上で、「指導と評価の計画」を作成することが重要である。また、「書くこと」の言語活動をさせる際には、学年の系統性を踏まえて書く力の定着を図るとともに、言語感覚を養うために推敲や共有をさせたり、字数等の条件を踏まえて分や文章を書かせたりするなど、言語活動の工夫が大切である。

また、「読むこと」については、情景描写についての理解と、情景描写と併せて場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の気持ちを読み取り、それを表現する力が不足していることが考えられる。今後の指導に当たっては、情景描写が含まれている叙述を的確に捉えさせることが大切である。さらに、捉えた情景描写を具体的に想像する際に、場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の気持ちを併せて考えることができる力を育てる必要がある。そのためには、物語を読んで理解したことに基づいて、感じたことや考えたことを文章にまとめる言語活動の充実が大切である。

【令和４年度県学習状況調査実施報告書より】

令和５年度全国学力・学習状況調査では、「書くこと」については１問、「読むこと」については３問出題され、全ての問題において全国平均を上回っているが、「書くこと」の県の平均正答率は２９．０％と非常に低かった。

今後の指導に当たっては、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、条件を満たして書かせたりすることが必要である。引用する場合は、まず何のために引用するのかという目的を明確にすることが必要である。原文を正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどに注意することも必要である。また、図表やグラフなどを用いるのは、示すべき事実が、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。なお、引用した文章や図表等の出典については必ず明記するとともに、引用部分が適切な量になるようにする必要がある。このことは、著作権を尊重し、保護するために必要なことであり、指導に当たっては十分留意することが求められる。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

・令和４年度県学習状況調査実施報告書
・令和５年度全国学力・学習状況調査報告書
・令和５年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイディア例

Ⅲ　算数

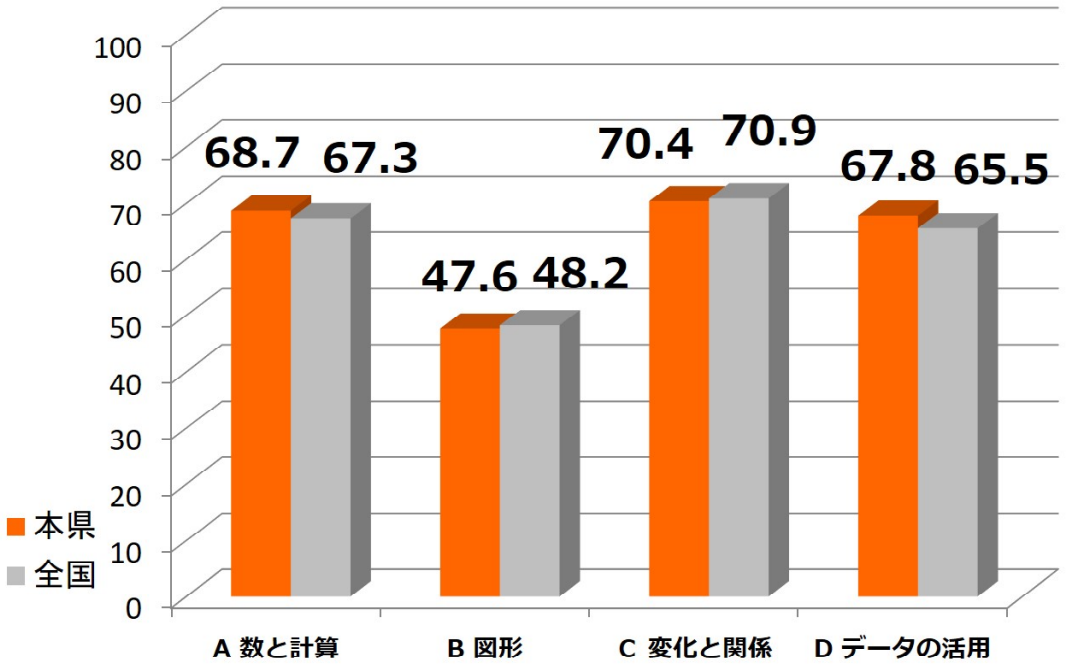
１　教科全体の結果

算数の平均正答率（%）		
青森県	全国平均との差	令和４年度全国平均との差
６３	＋０．５	－０．２

□　算数全体としては、本県は、全国平均と同程度である。

２　領域別の正答率

分　　類	区　　分	平均正答率（%）		
		青森県	全国との差	令和４年度全国との差
学習指導要領の領域	Ａ　数と計算	６８．７	＋１．４	＋１．１
	Ｂ　図形	４７．６	－０．６	±０．０
	Ｃ　測定			
	Ｃ　変化と関係	７０．４	－０．５	－０．５
	Ｄ　データの活用	６７．８	＋２．３	－０．７
評価の観点	知識・技能	６７．７	＋０．５	＋０．１
	思考・判断・表現	５７．５	＋１．０	±０．０
	主体的に学習に取り組む態度			



□領域別では、「Ａ数と計算」及び「Ｄデータの活用」が全国をやや上回っている。
▼領域別では、「Ｂ図形」及び「Ｃ変化と関係」が全国をやや下回っている。
□前年度との比較では、「Ｄデータの活用」が前年度をやや上回っている。同領域において、指導の工夫・改善が進んでいることが推察される。
□観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の２観点ともに全国をやや上回っている。

３　問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	青森県（公立）	全国（公立）	全国（公立）との差
1 （1）	５脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる				4(1) ア(ア)		○				○		94.6	93.5	1.1
1 （2）	椅子の数が２倍になっても、高さは２倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる				5(1) イ(ア)			○			○		88.8	88.5	0.3
1 （3）	椅子４脚の重さが７ｋｇであることを基に、４８脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる				5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア)			○				○	54.9	55.5	-0.6
1 （4）	全部の椅子の数を求めるために、５０×４０を計算する	一の位が０の二つの２位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	3(3) ア(ア)					○				○		82.6	80.8	1.8
2 （1）	テープを２本の直線で切ってできた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○			○			60.0	59.8	0.2
2 （2）	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		2(1) ア(イ) 4(1) ア(ア)				○				○		87.5	87.2	0.3
2 （3）	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのＡの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		3(1) ア(ア) 5(1) ア(イ)				○				○		22.5	24.9	-2.4
2 （4）	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる		5(3) イ(ア)					○				○	20.3	20.8	-0.5
3 （1）	２種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	（　）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	4(6) イ(ア)						○		○			74.0	70.3	3.7
3 （2）	３種類のファイル２３人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	3(5) ア(イ) 4(4) ア(エ) イ(ア)						○				○	57.0	56.7	0.3
3 （3）	（１５１＋４９）×３と１５１×３＋４９×３を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	4(6) ア(ア) 4(7) ア(ア)					○				○		76.9	72.4	4.5
3 （4）	６６÷３の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	（２位数）÷（１位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる	3(4) イ(ア) 4(3) ア(ア)						○		○			46.0	47.6	-1.6
4 （1）	示された基準量と比較量から、割合が３０%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる				5(3) ア(イ)		○			○			43.3	46.0	-2.7
4 （2）	運動カードから、運動した時間の合計が３０分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	4(2) ア(イ)				3(1) ア(ア)	○				○		75.9	75.7	0.2
4 （3）	二つのグラフから、３０分以上の運動をした日数が「１日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(イ) イ(ア)		○				○	61.2	56.2	5.0
4 （4）	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる					4(1) ア(ア)	○			○			66.4	64.6	1.8

４　問題別集計結果の状況

○良好であること

○Ａ数と計算
・一の位が０の二つの２位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる。
（【１（４）】対全国比：＋１．８）

○Ａ数と計算
・（　）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる。
（【３（１）】対全国比：＋３．７）

○Ａ数と計算
・加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる。
（【３（３）】対全国比：＋４．５）

○Ｄデータの活用
・示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかみる。
（【４（３）】対全国比：＋５．０）

○Ｄデータの活用
・二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる。
（【４（４）】対全国比：＋１．８）

▼課題であること

▼Ｃ変化と関係
・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
（【１（３）】対全国比：－０．６）

▼Ｂ図形
・正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。
（【２（３）】対全国比：－２．４）

▼Ｂ図形
・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかみる。
（【２（４）】対全国比：－０．５）

▼Ａ数と計算
・（２位数）÷（１位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる。
（【３（４）】対全国比：－１．６）

▼　Ｃ変化と関係
・百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。
（【４（１）】対全国比：－２．７）

学習指導に当たって

A 数と計算

・筆算を具体物や図に表すことで、式と関連付けて考察できるようにする。【３（４）】

筆算を具体物や図と関連付けて考察したり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表したりすることで、筆算を式と関連付けて考察できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、除法の筆算の手順を具体物や図に表したり、式に表したりする活動が考えられる。その際、除法の筆算が、被除数の66を60と６に分解して計算するという考え方に基づいていることを理解できるようにすることが大切である。

なお、具体物や図の操作から示唆された66を60と６に分解するという考え方が、第１学年で学習した、十を単位とした数の見方や２位数の表し方に基づいていることを理解できるようにすることも大切である。

B 図形

・目的の図形をつくるための操作の見通しを立てることができるようにする。【２（３）】

目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問のように、実際に正三角形や頂角の大きさが120°の二等辺三角形をつくる活動が考えられる。その際、テープを折ってⒶの角の大きさを20°などにして切ってできた直角三角形を切り開くと、頂角の大きさがそれぞれ何度になるのかを考えることができるようにすることが大切である。その上で、テープを切って開いてできた二等辺三角形の頂角の大きさはⒶの角の大きさの２倍になるのではないかということに気付き、正三角形をつくるためには、頂角の大きさを60°の半分の30°にすればよいという見通しを立てることができるようにすることが大切である。

C 変化と関係

・百分率で表された割合について理解できるようにする。【４（１）】

日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、百分率で表された割合から基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉える活動が考えられる。その際、図を用いて、百分率は基準量を100としたときの比較量の割合であることから、100人を基準量としたとき、それに対する比較量は30人と捉えることができるようにすることが大切である。また、歩合は基準量を10としたときの比較量の割合であることから、10人を基準量としたとき、それに対する比較量は３人と捉えることができるようにすることも大切である。

さらに、30％を「30人をもとにした１人の割合」と捉えている場合、30人を基準量としたとき、10％が３人であることから、30％が９人であることを確かめ、誤りに気付くことができるようにすることが大切である。

なお、30％を小数で表すと0.3であることから、30％は「100人をもとにした0.3人の割合」であると誤って捉えている場合、百分率で表された割合と小数の関係を理解できるようにすることが大切である。

D データの活用

・示された表から必要な情報を読み取ることができるようにする。【４（２）】

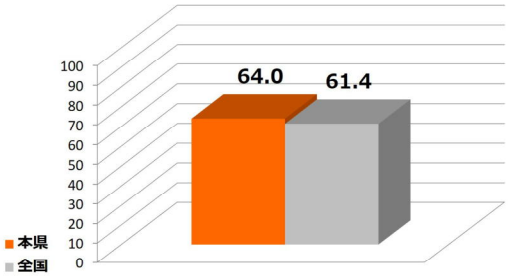
示された表から、データの特徴を捉え、必要な情報を読み取ることができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、示された表から、運動した時間の合計が30分以上の日数を読み取る活動が考えられる。その際、表のどの部分に着目するかを考え、一つ一つの項目について30分以上かどうかを判断できるようにすることが大切である。また、運動した時間の合計を少ない順に並び替え、「30分以上」について視覚的に捉えることができるようにすることも大切である。

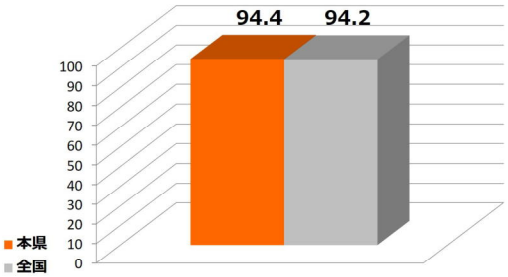
５　児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童の割合（%）】

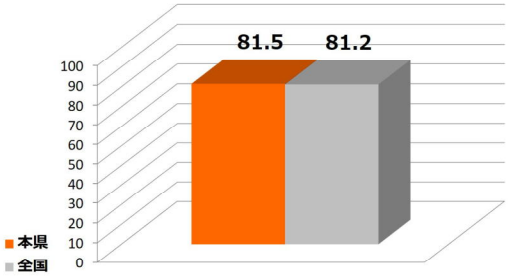
【（５１）算数の勉強は好きですか】



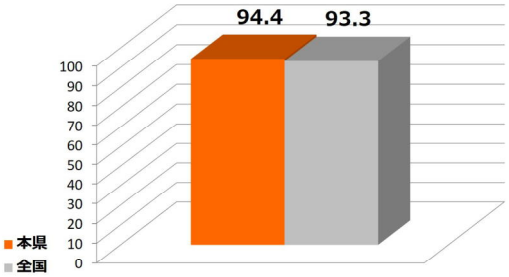
【（５２）算数の勉強は大切だと思いますか】



【（５３）算数の授業の内容はよく分かりますか】

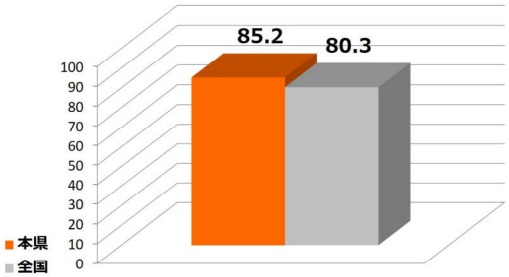


【（５４）算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか】

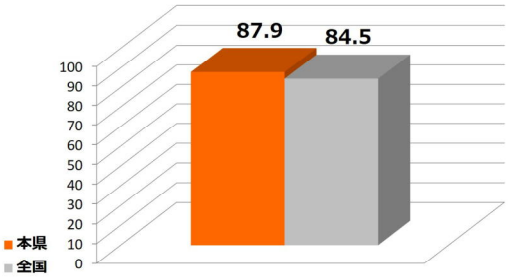


【全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力したと解答した児童の割合（%）】
【時間が余った・ちょうどよかったと解答した児童の割合（%）】

【（算１）今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか】



【（算２）解答時間は十分でしたか】

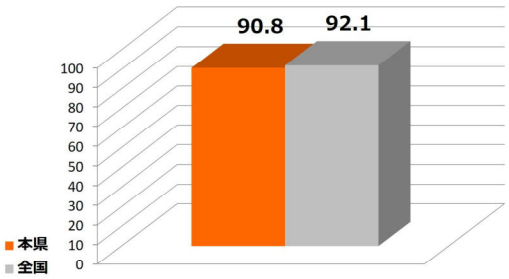


□算数に関する児童の質問紙調査の結果は、全国平均を上回るか同程度である。
□児童の算数に対する興味・関心や授業の理解度等は良好な状況にある。
□今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した児童の割合が８５．２ポイントで、全国平均を約５ポイント上回っている。

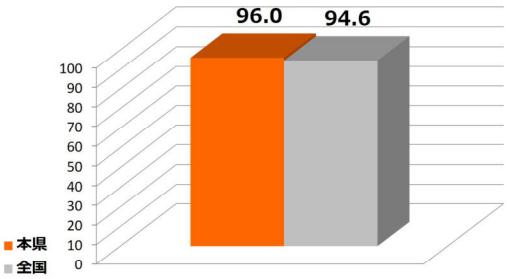
６　学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（%）】

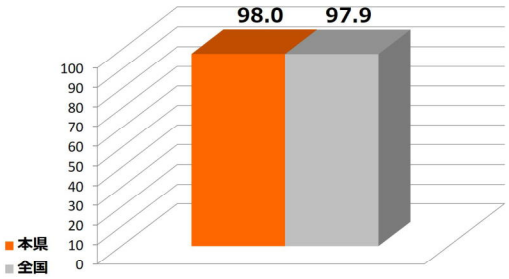
【（４６）実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか】



【（４７）具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか】



【（４８）公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか】



▼実生活における事象との関連を図った授業については、前回調査より４．８ポイント増加したものの全国平均を１．３ポイント下回っている。日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考えたりすることの一層の充実が必要である。
□操作などの体験を伴う学習を通して、実感を伴った理解をする活動については、前回調査より０．８ポイント増加し、全国平均を１．４ポイント上回っている。
□公式やきまり、計算の仕方等の指導で、児童がわけを理解できるように工夫しているかについては、前回調査より２ポイント増加し、全国平均を０．１ポイント上回っている。

７　指導改善のポイント

（１）各領域について《令和５年度　全国学力・学習状況調査　報告書より》

A 数と計算

◆　数量の関係を捉え、問題の解決に式を用いることができるようにする指導の充実

日常生活の問題を解決するために、場面を解釈して数量の関係を捉え、式を用いることができるようにすることが重要である。また、どのように式を用いたのかを説明できるようにすることも大切である。

◆　筆算を具体物や図に表すことで、式と関連付けて考察できるようにする指導の充実

筆算を具体物や図と関連付けて考察したり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表

したりすることで、筆算を式と関連付けて考察できるようにすることが重要である。また、第１学年で学習した、十を単位とした数の見方や２位数の表し方に基づいていることを理解できるようにすることも大切である。

B 図形

◆ **目的の図形をつくるための操作の見通しを立てることができるようにする指導の充実**

目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることができるようにすることが重要である。

◆ **底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする指導の充実**

三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さと面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要である。その際、平行な直線にはさまれた底辺が等しい、二つの平行四辺形や、二つの三角形の面積を比べることで、底辺と高さの関係について理解できるようにすることが大切である。

C 変化と関係

◆ **伴って変わる二つの数量について、変化の規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにする指導の充実**

伴って変わる二つの数量について、比例の関係にあることを用いて、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにすることが重要である。

◆ **百分率で表された割合について理解できるようにする指導の充実**

日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。

D データの活用

◆ 複数のグラフを比べ、見いだしたことを表現できるようにする指導の充実

目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことを、他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要である。また、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かりやすく説明できるようにすることも大切である。

（２）質問紙調査の結果を踏まえて

児童質問紙

◆ **数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表す指導の充実**

言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答している児童は、平均正答率が高い傾向にある。本県でこのように回答した児童は全国平均正答率を９．６ポイント上回っている。「書く問題で解答しなかったり、解答を途中であきらめたりしたものがあった」と回答した児童に比べて１７．４ポイント、「書く問題は全く解答しなかった」と回答した児童に比べては３１．２ポイント高い結果であった。

数学的に表現することは、事象を数理的に考察する過程で、観察したり見いだしたりした数量や図形の性質などを的確に表したり、考察や結果の判断などについて根拠を明らかにして筋道立てて説明したり、既習の算数を活用する手順を順序よく的確に説明したりする場面で必要になる。数学的な表現を用いることで、事象をより簡潔、明瞭かつ的確に表現することが可能になり、論理的に考えを進めることができるようになったり、新たな事柄に気付いたりすることができるようになる。

数学的な表現を簡潔・明瞭・的確なものに高めていくと、その一方で表現自体は抽象的になるが、算数の学習では、「つまり」と具体的な事柄を一般化して表現したり、「例えば」と抽象的な事柄を具体的に表現したりすることも大切である。考えたことを目的に応じて柔軟に表現する経験を通して、数学的な表現の必要性や働き、よさについて実感を伴って理解できるようにすることが大切である。

学校質問紙

◆　実生活における事象との関連を図った授業の充実

「実生活における事象との関連を図った授業を行った」と回答している学校の割合は、９０．８ポイントであり、全国平均を１．３ポイント下回っている。前年度から４．８ポイント増加したものの全国平均を下回る結果となった。

現行の学習指導要領では、「日常の事象を数理的に捉える」ことを明示し、その重要性を強調しており、児童の発達段階に応じて、広く算数の対象となる様々な事象を考える必要がある。「数理的に捉える」とは、事象を算数の舞台にのせ数理的に処理できるようにすることであり、事象の中にそのままでは解決できない問題状況がある場合、既習の概念や原理が適用できるように問題の場面で模型（モデル）を構成し、数学的に問題を解決することが必要となる。その際、事象を理想化したり、単純化したり、条件を捨象したり、ある条件を満たすものと見なしたりするなどの定式化が行われるが、このような過程を遂行する資質・能力の育成を目指すことが大切である。

〈令和４年度県学習状況調査を踏まえて（算数）〉

令和４年度県学習状況調査実施報告書において、本県の小学生は「Ａ数と計算」と「Ｃ変化と関係」の領域で課題があると分析した。

「Ａ数と計算」については、第２学年で学習した分割分数と、第３学年で学習した量を表す分数の違いを理解できていないことに課題があり、前学年までの既習事項から、何をもとにするかで実際の量が変わってくることを確認したり、１／２（分割分数）と１／２ｍ（量を表す分数）を比較したりするなど、具体的な数値を挙げながら違いを明確にすることが大切であるとした。

「Ｃ変化と関係」については、縦軸と横軸に表された数量を捉えることができず、一目盛りの大きさを読み取れなかったり、グラフの傾きのみで判断したりするなど、グラフの特徴を読み取るための見方に課題があり、目的に応じてデータを集め、表やグラフに表してその特徴を読み取り、判断できるようにする。そして、導いた結論について、問題解決にかなうものであるか、誤りではないか考察することが必要である。また、折れ線グラフについて、紙面の大きさや目的に応じて適切な一目盛りの大きさやグラフ全体の大きさを決めることができるようにすることも大切であるとした。

【令和４年度学習状況調査実施報告書より】

令和５年度全国学力・学習状況調査では、「Ａ数と計算」の領域の県の平均正答率は、６８．７ポイントと全国平均を１．４ポイント上回っている。しかし、【３（４)】６６÷３の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ問題では、４６．０ポイントと全国平均を１．６ポイント下回った。筆算を具体物と関連付けて考察したり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表したりすることで、筆算を式と関連付けて考察できるようにすることが重要である。

「Ｃ変化と関係」の領域の県の平均正答率は、７０．４ポイントと全国平均を０．５ポイント下回っている。その中でも、【４（１)】示された基準量と比較量から、割合が３０％になるものを選ぶ問題では、４３．３ポイントと全国平均を２．７％下回った。日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが大切である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

・令和４年度学習状況調査実施報告書
・令和５年度全国学力・学習状況調査報告書
・令和５年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイディア例

Ⅳ　質問紙調査

質問紙調査の結果については、以下の視点で分析を行った。
・良好な状態を把握するために、
　□全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かったか。
　□望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）か。
・課題となっている状況を把握するために、
　▼全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かったか。
　▼望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）か。

１　児童質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した児童は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

（１）基本的生活習慣等
①概況及び課題
【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
1　朝食を毎日食べているか 【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	９４．７	＋０．８	±０．０ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　朝食を毎日食べている児童の割合は、全国平均とほぼ同程度である。

②今後の対策・指導
◆　保護者集会や各種通信等を通じて、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるよう、家庭との連携を一層図る。

（２）挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等
①概況及び課題
【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
5　先生は、あなたのよいところを認めてくれているか　【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	９３．１	＋３．３	＋１．９ ④
6　先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	９４．８	＋１．８	＋０．４ ①
9　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	９７．６	＋０．７	＋０．３ ④
11 人の役に立つ人間になりたいと思うか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	９６．５	＋０．６	＋１．０ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと考えている児童の割合、人の役に立つ人間になりたいと考えている児童の割合は極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　あらゆる機会を通じて、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を徹底するとともに、引き続き、児童同士の心の結び付きを深め、社会性を育む活動を推進し、いじめの未然防止を図る。

◆　学級内や学校行事で一人一人に役割を与えたり、活躍できるような活動を取り入れたりするなど自己肯定感をもたせる指導や自己有用感をもたせる活動を設定し、今後も児童のよさをより一層積極的に評価していく。

◆　学習規律やきまり、約束を守ることの大切さを今後も継続して指導していくとともに、なぜ大切なのかについて児童に考えさせる指導の充実を図る。

（３）学習習慣・学習環境等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
16　家で自分で計画を立てて勉強をしているか（学校の授業の予習や復習を含む）【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	７６．４	＋５．７	＋１．４ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は、全国平均を上回っており、令和４年度を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
20　学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書しているか（電子書籍を含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）【「1時間以上」の割合】	１８．２	－０．３	＋１．８ ④
21　昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書、参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行くか【「週1回以上」の割合】	１３．２	－０．２	－５．０ ①
23　新聞を読んでいるか【「週1回以上」の割合】	１２．５	－０．１	－０．９ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼　普段、１日当たり１時間以上読書をしたり、読書をするために学校図書館、学校図書室、地域の図書館に行ったり、また、週１回以上新聞を読んだりしている児童の割合は、２割に満たない。

②今後の対策・指導

◆　各教科等の指導として、学習したことが読書活動に発展するような授業展開を工夫する。また、その内容を学級通信等を活用して家庭に情報発信し、読書習慣を身に付けさせるよう連携する。

◆　ＮＩＥ等の取組を活用するなど、授業や家庭学習において児童が新聞に触れたり読んだりする機会を設定する。

（４）地域や社会に関わる活動の状況等

①概況及び課題

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
25　今住んでいる地域の行事に参加しているか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	５６．１	－１．７	＋５．７ ④

□　今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合は、令和４年度を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　地域の人たちや関係機関の協力を仰ぎながら、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

地域や社会との関わりの質的な充実を図るために

○各教科等の学習において、新聞の地元に関する記事等を取り扱うなど、適切な題材や場面で地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行う。

○総合的な学習の時間の学習素材として、地域の行事や祭りなどの地域に関する内容を取り扱い、自分が住んでいる地域に対する興味・関心をもたせるようにする。具体的には、地域の人たちと関わる場を設定したり、地域の自慢できることを検討したりする学習活動を取り入れ、地域のよさを児童自ら再確認することによって、地域の一員としての自覚や参画する意識を育てるようにする。また、地域の人たちとの触れ合いは、児童の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、地域の人材バンクの作成に努める。

○各教科等で学習した日本や自分が住んでいる地域のことを、外国語活動・外国語科の授業における言語活動で活用する。

（５）ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
30　学習の中でＰＣ・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか 【「役に立つと思う」「どちらかといえば、役に立つと思う」の合計】	９６．３	＋１．２	＋０．５ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　学習の中でＰＣ・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと考えている児童の割合は極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

（参考）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
31　学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っているか 【「30分以上」の割合】	４２．１	＋１．０	新　規

▼　学校の授業時間以外に、普段、１日当たり３０分以上、PC、タブレットなどのICT機器を勉強のために使っている児童の割合は、全国平均をやや上回っている。

②今後の対策・指導

◆　PC・タブレットなどのICT機器の活用に当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

○カリキュラム・マネジメントを充実させ、各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、ICTを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かす。

○端末の活用を「当たり前」のこととし、児童自身がICTを自由な発想で活用するための環境を整備し、授業づくりに反映させる。

○ICTの特性を最大限活用した、不登校や病気療養等により特別な支援が必要な児童に対するきめ細かな支援、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会を提供する。

○ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備を両輪とした、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。

（６）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
34　５年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったか（★） 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	７９．７	＋５．３	＋５．０ ④
37　学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか（★） 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	８２．７	＋５．３	＋１．１ ④

（参考）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
38　授業で学んだことを他の学習で生かしているか（★） 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	８６．２	＋４．３	新　規

□　各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめたり、学習した内容について分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげたりすることが、全国平均を上回っている。

□　授業で学んだことを他の学習で生かしている児童の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
34　５年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	７９．７	＋５．３	＋５．０ ④

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

○単元や内容のまとまりを見通して、児童の各教科等に対する興味・関心が高まるよう工夫するとともに、各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面を授業に位置付けた指導計画と各教科等の目標の実現状況を把握するための評価計画を作成し、指導と評価の一体化に取り組む。

○児童の実態、学習の目標や内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫しながら考え意見を発表し合う機会を意図的に設け、どの児童にも自分の考えを相手に伝える体験をさせる。また、友達の意見を共感的に聞けるよう、引き続き、話しやすい学級の雰囲気づくりにも心がけ、児童が自信をもって話すことができるようにする。

○学校ならではの児童同士の学び合いや、多様な他者と協働して主体的に課題を解決しようとする探究的な学びを充実させる。

○教科等の特質に応じ、地域・学校や児童の実情を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を、「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

（７）総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科　道徳

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
40　学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	８４．４	＋７．２	＋３．７ ④
41　学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	８１．７	＋６．０	＋２．７ ④

□　学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている児童の割合は全国平均を上回っている。

□　学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童

の割合は全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が過年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

２　学校質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した児童は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

（１）生徒指導等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
11　調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９４．４	＋７．９	＋２．８ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導が９割以上の学校で行われている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
8　児童は、熱意をもって勉強していると思うか【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	９３．２	＋２．１	＋５．６ ④
11　調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９４．４	＋７．９	＋２．８ ④
12　学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	９８．０	＋１．０	＋４．４ ④
13　学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）の取組を行ったか【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	９９．２	＋０．３	＋０．４ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　児童は、熱意をもって勉強していると回答した学校は９割を超えている。

□　学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた学校は９割を超えている。

□　児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行った学校は９割を超えている。

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　授業を行うに当たっては、引き続き次のようなことを心がけるようにする。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

○児童の問い・驚き・気付きを大事にし、児童にとって分かりやすく課題（めあて）を設定する。

○一人一人の児童に自分の考えをもたせた上で、グループ学習やペア学習等の話合い活動の場を設定し、考えを深めさせたり広げさせたりする。

○振り返りの場では、児童の言葉で学習のまとめをするとともに、学習を通して自分ができるようになったことや分かったことなどを話させ、児童自身に学びを自覚させるようにする。

○児童が勉強に熱意をもって取り組むことができない要因を多面的に探り、分析するとともに、各教科等の授業では、児童にとって興味・関心を高める工夫を心がける。

○教科等の特質に応じ、地域・学校や児童の実情を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を、「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

（２）学校運営に関する状況、教職員の資質向上に関する状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
24　個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加しているか（オンラインの参加を含む）【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９５．６	＋１１．４	＋５．２ ④
25　校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っているか（管理職を除く）【研修主任または研究主任が担っている割合の合計】	９９．６	＋８．８	±０．０ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している（オンラインの参加を含む）割合は、全国平均よりも１０ポイント以上高い。

□　ほぼ全ての学校で、校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、研修主任又は研究主任が担っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
16　ＩＣＴを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れたか【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９６．８	－１．５	新　規
18　教育課程表（全体計画や年間指導計画）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成しているか【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９８．０	＋１．７	新　規
19　児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立しているか	９９．２	＋３．０	－０．４ ④

【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】			
20　指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９６．４	＋０．９	＋１．６ ④
21　言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいるか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９５．２	－０．４	新　規
22　授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っているか　【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９９．６	＋１．１	±０．０ ④
24　個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加しているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９５．６	＋１１．４	＋５．２ ④
25　校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っているか 【研修主任または研究主任が担っている割合の合計】	９９．６	＋８．８	±０．０ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　ほぼ全ての学校で、適切に指導計画が作成されているとともに、児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程の編成・実施・評価がなされている。

□　ほぼ全ての学校で授業研究や事例研究など、実践的な研修が行われている。

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
14　教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行ったか 【「月に数回以上の割合」の合計】	６１．８	－１４．７	＋２．２ ④
15　教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行ったか 【「月に数回以上の割合」の合計】	７６．３	－１０．４	＋１．１ ④
17　ＩＣＴを活用した校務の効率化の一貫として、クラウドを活用した公務の効率化に取り組んでいるか。【「十分軽減した」「どちらかといえば、軽減した」の合計】	８６．８	－９．３	新　規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼　教員が授業や学級の問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合ったり、ともに問題解決に当たることを行ったりした割合は、全国平均を大きく下回っている。

▼　クラウドを活用する等、ＩＣＴを活用した校務の効率化に引き続き取り組む必要がある。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　引き続き、児童の姿や地域の現状等を踏まえ、教育課程を適切に編成・実施し、評価することが肝要である。

◆　教員が授業や学級の問題を抱えている場合、そのことについて話し合い、積極的に問

題解決を図る体制の構築に取り組む必要がある。
◆　ＩＣＴを活用した校務の効率化に引き続き取り組む必要がある。

（３）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
31　学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９５．６	＋２．５	新　規
32　児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるような学習課題や活動を工夫したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９４．８	＋０．５	新　規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　ほぼ全ての学校で、学習指導において、児童一人一人に応じた学習活動を工夫している。
□　ほぼ全ての学校で、児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるような学習課題を工夫している。

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
36　本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	７５．５	－９．１	新　規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼　本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行った割合は、全国平均を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導
◆　引き続き、児童一人一人に応じた、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるような学習課題や活動を工夫していくことが大切である。
◆　本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に設定することが大切である。

（４）総合的な学習の時間・学級活動・特別の教科道徳
①概況及び課題
【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
37　総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９６．８	＋４．１	＋３．２ ④
38　学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９４．８	＋０．５	－０．４ ④
39　学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９５．１	＋２．０	＋４．３ ④
40　特別の教科　道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９６．０	－０．５	＋０．４ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　ほぼ全ての学校で、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導が行われている。
□　ほぼ全ての学校で、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導が行われている。
□　ほぼ全ての学校で、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導が行われている。
□　ほぼ全ての学校で、特別の教科　道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導が行われている。

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　総合的な学習の時間や学級活動、特別の教科　道徳において、児童の課題意識を基にした題材の工夫や、児童が調べたり発表したりするような活動を通して、主体的に学習に取り組む態度を育成することが大切である。

（５）学習評価

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

（参考）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
41　前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に活かすことを心がけたか　【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９２．８	＋２．５	新　規

②今後の対策・指導

◆　学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に活かすことを心がけることが大切である。

（６）ＩＣＴを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
55　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用したか　【週3回以上使用している合計】	８３．１	－７．５	＋１０．３ ④
56　調査対象学年の児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか　【週3回以上使用している合計】	６３．５	－６．５	＋１６．７ ④
57　自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配置されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか　【週3回以上使用している合計】	３４．１	ー１１．７	＋６．９ ④
58　教職員と児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか　【週3回以上使用している合計】	４３．８	－９．３	＋１５．８ ④
59　児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか　【週3回以上使用している合計】	３１．７	ー８．３	＋１１．７ ④
62　教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのＩＣＴ機器をどの程度活用しているか　【週3回以上使用している合計】	４４．２	ー１８．６	＋６．２ ④
63　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか　【週3回以上使用している合計】	５５．０	－２６．３	＋１４．２ ④
64-1　児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのＩＣＴ機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか　【週3回以上使用している合計】	２８．９	－１４．１	＋９．７ ④
64-2　児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのＩＣＴ機器について、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援　【週3回以上使用している合計】	５９．１	ー８．１	＋１８．７ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を授業の発表・表現や児童同士等のやりとり、不登校等に対する活用は、前年度を大きく上回っているが、全国平均と比べると、大きく下回った。

□　調査対象学年の児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させている割合は、前年度を大きく上回っているが、全国平均と比べると、大きく下回った。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
55　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用したか　【週3回以上使用している合計】	８３．１	－７．５	＋１０．３ ④
56　調査対象学年の児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか　【週3回以上使用している合計】	６３．５	－６．５	＋１６．７ ④
57　自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配置されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか　【週3回以上使用している合計】	３４．１	－１１．７	＋６．９ ④
58　教職員と児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか　【週3回以上使用している合計】	４３．８	－９．３	＋１５．８ ④
59　児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか　【週3回以上使用している合計】	３１．７	－８．３	＋１１．７ ④
62　教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのＩＣＴ機器をどの程度活用しているか　【週3回以上使用している合計】	４４．２	－１８．６	＋６．２ ④
63　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか　【週3回以上使用している合計】	５５．０	－２６．３	＋１４．２ ④
64-1　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか　【週3回以上使用している合計】	２８．９	－１４．１	＋９．７ ④
64-2　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか　【週3回以上使用している合計】	５９．１	－８．１	＋１８．７ ④
64-3　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、外国人児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか　【週1回以上使用している合計】	４．０	－１５．３	新　規

64-4　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、児童の心身の状況の把握の把握にどの程度活用しているか 【週1回以上使用している合計】	２６．９	－８．６	新　規
65　障害のある児童が一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施したか 【「行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	６．８	－９．２	新　規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を週３回以上家庭で活用している割合や、授業で自分の考えをまとめ、発表・表現する場面での活用等は、全国平均を大きく下回っているが、過年度とと比べると、大きく上回った。

□　調査対象学年の児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）で、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用させている割合は、前年度を大きく上回っているが、全国平均を大きく下回った。

□　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、不登校児童に対する学習活動、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援、外国人児童に対する学習活動等の支援、児童の心身の状況の把握等に関する活用の程度は全国平均を大きく下回った。

□　障害のある児童に対して、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施した程度は全国平均を大きく下回った。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
57　自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配置されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか 【週3回以上使用している合計】	３４．１	－１１．７	＋６．９ ④
58　教職員と児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか 【週3回以上使用している合計】	４３．８	－９．３	＋１５．８ ④
59　児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか 【週3回以上使用している合計】	３１．７	－８．３	＋１１．７ ④
60　児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか 【週3回以上使用している合計】	４３．０	－２．０	新　規
61　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って、児童が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施したか 【週3回以上使用している合計】	０．８	－４．２	－１．２ ④

62　教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのＩＣＴ機器をどの程度活用しているか　【週3回以上使用している合計】	４４．２	ー１８．６	＋６．２ ④
64-1　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか　【週3回以上使用している合計】	２８．９	－１４．１	＋９．７ ④
64-3　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、外国人児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか　【週1回以上使用している合計】	４．０	－１５．３	新　規
64-4　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、児童の心身の状況の把握の把握にどの程度活用しているか　【週1回以上使用している合計】	２６．９	－８．６	新　規
64-5　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、児童に対するオンラインを活用した相談・支援をどの程度実施したか　【週1回以上行った合計】	１２．８	－０．７	新　規
65　障害のある児童が一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施したか　【「行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	６．８	－９．２	新　規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と〇数字年度の値の差

▼　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレット等のＩＣＴ機器を授業で活用している割合は、全国平均を下回っている。

▼　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレット等のＩＣＴ機器を家庭で利用できるようにしている割合や不登校児童や特別な支援を要する児童、外国人児童に対する学習活動等の支援に活用している割合は、全国平均を下回っている。

②今後の対策・指導

◆　児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレット等のＩＣＴ機器を、教職員が積極的に授業で活用することが求められる。

◆　ＩＣＴ機器の利用については、家庭の理解と協力を得るとともに、児童の情報モラルの育成についても、組織的・計画的に行う必要がある。

（７）特別支援教育

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

（参考）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
66　学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行ったか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９６．４	＋１．５	＋６．４ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼　９割以上の学校で、児童の特性に応じた指導上の工夫が行われており、前年度を上回った。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　引き続き、特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的・計画的に行う必要がある。

（８）小学校教育と中学校教育の連携

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
68　近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	５７．１	－１．１	＋５．５ ④

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
69　令和４年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	４０．９	－１２．７	＋１．３ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼　令和４年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有した割合は、過年度を上回っているものの、全国平均に比べ大きく下回っている。

②今後の対策・指導

◆　小中連携に当たっては引き続き、次のようなことを心掛けるようにする。

小中連携の充実を図るために

○小・中教職員全体での合同研修会では、授業参観や協議を通して、相互の児童生徒の実態や相互の教育内容、指導方法、指導形態等、現状で行われている教育活動の具体的な取組などを共通理解し、各校の指導のねらい等に対する理解を共有する場にする。

○小中連携を推進する会議等では、各学校が自校の教育目標の下に進めている教育活動の中での連携の可能性を探ったり、児童生徒の学力に関する課題を共有したりすることで、自校の教育課程の編成に反映させるようにする。

○研修会や会議等で得た中学校での取組や生徒の現状に関する情報を全教職員で共有し、義務教育９年間を通じて子どもを育てるという意識の下、小学校卒業時までに児童にどのような力を身に付けさせるかという視点も含めて、教育課程の編成に当たるようにする。

○全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有する機会を設定する。

（９）家庭や地域との連携

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
72　保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加しているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９３．６	－２．３	＋２．４ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
70　職場見学を行っているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	３０．９	－８．７	＋３．７ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
70　職場見学を行っているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	３０．９	－８．７	＋３．７ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼　職場見学を行った学校は５割に満たなかった。

②今後の対策・指導

◆　学校や地域の実情に応じて、引き続き、家庭や地域との連携の充実を図ることが肝要である。

(10) 家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
75　家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９６．４	＋５．６	新　規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　ほぼ全ての学校で、家庭学習の充実に関する取組が行われている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
76　学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９７．９	＋２．２	－２．１ ④
77　学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９３．２	＋２．６	－１．６ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　県内ほとんどの学校で、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしている。

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　家庭学習は、学習内容の定着には欠かせないものであり、引き続き、家庭学習の課題の与え方について、学校の児童の実態を考慮し、学年ごとの基本的な学習時間、教科ごとの学習方法等について教職員間で共通理解を図るなどの取組を継続する。

(11) 全国学力・学習状況調査の結果等の活用

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
78　令和４年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用したか 【「よく行った」「行った」と答えた学校の割合】	９５．２	－０．８	±０．０ ④
79　地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているか 【「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」の合計】	９４．０	＋１．８	±０．０ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　全国学力・学習状況調査の結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用

している学校の割合が上昇している。

□　地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている割合は、全国平均を上回っている。

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
80　令和４年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行ったか 【「よく行った」「行った」と答えた学校の割合】	７８．０	－１０．０	＋１．２ ④

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼　全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人たちに公表や説明をしている学校は７割を超えるものの、全国平均を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　全国学力・学習状況調査等の活用については、以下のことを心がけるようにする。

組織的な取組を推進するために

○**調査結果で明らかとなった成果と課題について、保護者参観日の全体会や学校通信等を通じ、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行う**とともに、学力向上のための取組について理解と協力を求める。

(12) 新型コロナウイルス感染症の影響

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
81-3　前年度に学芸会・文化祭を実施したか。 【「新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ方法時で実施した」と「新型コロナウイルス感染症の影響前と内容や方法を変更して実施した」割合】	８４．７	＋２６．０	新　規
81-5　前年度に芸術鑑賞会を実施したか。 【「新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ方法時で実施した」と「新型コロナウイルス感染症の影響前と内容や方法を変更して実施した」割合】	８９．６	＋５．９	新　規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　令和４年度における学芸会・文化祭の実施状況については、８割を超え、全国平均を大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
81-1　調査対象学年の児童に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施したか。 （１）運動会・競技会・球技会	１００．０	＋０．４	新　規
81-7　前年度に集団宿泊活動（修学旅行を含む）を実施したか。 【「新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ方法時で実施した」と「新型コロナウイルス感染症の影響前と内容や方法を変更して実施した」割合】	９９．６	＋１．７	新　規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□　令和４年度における運動会・競技会・球技会の実施状況は９割を超え、県内ほとんどの学校で実施された。
□　令和４年度における集団宿泊活動（修学旅行を含む）の実施状況は９割を超え、県内ほとんどの学校で実施された。

【全国平均又は過年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　新型コロナウイルス感染症の影響を受け､校内で実施可能な学校教育活動においては、感染症対策を徹底することにより、実施できている状態である。今後は、新しい生活様式を踏まえた学校教育活動を更に推進していくことが求められる。

◆　新型コロナウイルス感染症の影響を受け、校外で実施する学校教育活動においては、慎重な取組を行っている状態であるが、各校で工夫して児童の学ぶ機会を設ける必要がある。今後も感染防止対策を講じながら、校外行事等の実施を目指していくことが求められる。